

こうち子ども観光大使選抜講座1

盛会御礼新聞 県立牧野植物園

平成28年6月26日

こうち子ども観光大使選抜講座

梅雨の晴れ間・牧野植物園

こうち子ども観光大使の選抜講座①は「牧野植物園」。講座内容は「牧野博士を知り、植物画を描こう」である。参加児童は三十一名。保護者や兄弟姉妹を入れると六十名以上の大盛会となった。

講師は牧野植物園・教育普及課の里見さんと植物解説員の稲垣さん。里見さんは牧野植物園のイラスト関係や企画展の展示デザインをされている方だ。そして、稲垣さんは牧野植物園に五十年以上勤務しており、高知県で一番植物に詳しい方である。里見さん「日本には何種類の植物画あるか知っていますか？」里見さんの講座は、時々クイズが入る。これが、分かりそうで難しい。大人も答えられない。

「約6000種類です。そのうち1500種類に牧野博士は名



前をつけています。」

講座開始五分で、会場にいる人は牧野博士の偉大さを実感した。

牧野博士の植物画

参加者全員で展示室に移動した。この展示室には、牧野博士の植物画（実物）が展示されている。その詳細で緻密な植物画には迫力すら感じる。ここで牧野博士の筆についてのクイズ。

「この筆は何の毛を使っているでしょうか？」子どもの手が元氣よく挙がる。「クマ」「トラ」など予想はするが不正解。正解は「ネズミ」であった。緻密な植物画を描く牧野博士の道具へのこだわりを学ぶことができた。

いざ植物採集へ

この日、子どもたちが描く植物画の題材は沖繩の花「ヒサカキサザンカ」であった。実際にヒサカキサザンカを見に行く。



予想以上に大きな木に、白くて小さい花が咲いている。里見さんと稲垣さんが手際よく剪定バサミで切り取ってくれた。

じっと植物を見つめる体験

いよいよ植物画を描くときがきた。稲垣さん「見たままを描いて下さい。」「大きさもそのまま。」里見さん「一つの植物をじっくり眺める経験を一生に一度は経験して欲しいのです。人間は一度見たものを見たような気になっていくことが多いのです。千円札の野口英世はお札の左・右のどちらに描かれているか？」

言われてみると、意外と分からない。なるほどと思った。日常で1つのものをじっくりと見る作業はあまりない。牧野博士は、このじっくりと見る作業を生涯に渡って続けたそう。子どもたちは、植物学の父・牧野博士と同じ体験をしている。



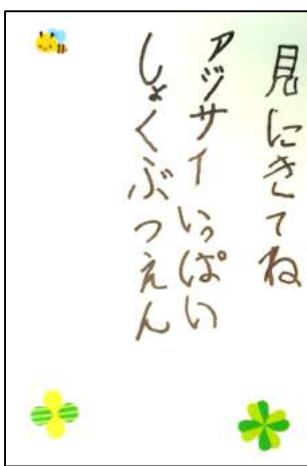
初めは難しそうに思っていた植物画。時間の経過と共に、子どもたちの鉛筆もかなり走り出した。

ていた。一枚の葉っぱをじっくり見つめる男の子。その植物画には数多くの線が描き込まれている。葉っぱを見れば見るほど、細かい線が浮かび上がり見えてくる。これがじっくりと見る体験なのか。



ふるさと俳句で発信

最後は観光大使としての発信である。「植物園」と「植物の名前」を入れた俳句作りをした。



感想より（一部抜粋）

・今日は植物が見られて嬉しかったです。絵を描くのも面白かったです。

・植物を見る機会があまりないのでいい体験になった。
・今日はヒサカキサザンカの絵

を描いて、細かく描けて楽しかったです。

植物の絵を時間をかけて描いたことや、牧野富太郎さんの絵を見たことがとても楽しかったです。いろんな植物のことを入れた俳句をつくったことが心に残りました。

・すこいすこいこんな牧野植物園とは思いませんでした。楽しかったです。また来てみたいです。

・絵は難しかったけど、俳句は大好きです!!!

里見さんからのメッセージ

「みんな、それぞれよく植物を観察して描いていて、驚かされました。」みんなの頑張りが褒められるととても嬉しい。

さらに、こうち子ども観光大使についても「高知の観光を教育面からマネアスするような事業に協力できれば、植物園



としても有意義なことです。なによりも牧野富太郎さんが喜ぶ顔が浮かんでくるようです。」